

〔第 137 回銀行業務検定試験〕
「信託実務 3 級」団体最優秀賞受賞

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

～資産管理プロ集団として自他ともに認める「THE 資産管理専門銀行」へ～

今回は、去る平成 29 年 6 月 4 日に実施された第 137 回銀行業務検定試験の「信託実務 3 級」において団体最優秀賞を受賞されました、日本トラスティ・サービス信託銀行へお伺いしました。

日本トラスティ・サービス信託銀行は、資産管理業務に特化した信託銀行として、2000 年 6 月 20 日に大和銀行（現・りそな銀行）と住友信託銀行（現・三井住友信託銀行）の共同出資によって設立されました。その後 2002 年 9 月には三井トラストフィナンシャルグループ（現・三井住友トラスト・グループ）が資本参加して現在に至っています。資産管理事業を通じて、企業・社会の発展に貢献し、人々の豊かな暮らしをサポートすることを経営理念に掲げ、顧客本位の業務運営を心がけているそうです。

今回、快く取材に応じてくださいましたのは、人事部上級推進役の山本裕啓さんです。



▲人事部上級推進役
山本裕啓さん

●お客様の大切な資産を適切に管理するために

今回、「信託実務 3 級」において合格率 70.00%、平均点 64.49 点の成績で団体最優秀賞を受賞されました。その感想をうかがうと、「年金・投資信託等の多様な信託商品を管理しているため、社員として信託法や信託商品への理解を深めることは非常に重要だと考えています。そのため、新入社員や入社まもない社員にも『信託実務 3 級』の早期取得を促し、結果として多くの合格者につながったのは大変うれしく思います」とのことでした。

また、「内定者には経済法令研究会発行の書籍『信託の基礎』を入社する前より熟読してもらい、

信託業務や資産管理業務を行う当社の役割を理解してもらえるようにしています」とおっしゃっていました。

●資産管理のプロ集団として自他ともに認める存在に

求められる人材については、「金融市場のグローバル化の進展に伴い金融商品は多様化・複雑化し、資産運用の幅も広がりました。『資産管理』と『資産運用』のそれぞれの業務を専門的に受け持つ企業の存在が不可欠です。当社は、資産管理業務に特化したプロ集団としてお客様の大切な資産を預かり、ご要望に対応し、お客様との間に揺るぎない信頼を築くことを目指しております。そ

のため、社員は法令や社内ルールを遵守し、常に責任感と誠意をもって行動することが重要と考えております。

これからもお客様からお預かりした有価証券等の管理を通じてより高い品質・サービスを効率的に提供するために、自己変革を継続し『THE 資産管理専門銀行』として進んでいきます」とお話しくださいました。

●銀行業務検定試験の位置付け

銀行業務検定試験が人材育成体系のなかでどのような役割を果たしているのかお聞きしたところ、「資産管理業務における専門知識の習得を図るため、入社時から段階的に取得するよう社員に明示して、取得を義務付けています。また、人事部主催の導入研修での早期取得への意識付けはもちろんのこと、社内広報などを活用し計画的な受験を促している」とのことです。

「合格への具体的な対策として、個々の受験者は、基本知識となる書籍の熟読をベースに、その後、問題解説集を繰り返し解くことで、理解を深めていったようです。また、人事部としても試験対策のために、通信講座を推薦しており、内定者教育にも導入しています。そのほかに、信託法や信託業務への理解を深める勉強会を年1回程度(計8回コース)実施しています」とおっしゃっていました。自己研鑽を促進させるため、受験料の補助のほか、書籍や問題集等の購入時の費用補助にも利用できる、カフェテリアプランという福利厚生制度も整えているそうです。

●資産管理専門銀行ならではの人材育成の目指す姿

社員教育・人材育成については、「現在の資産管理業務は、高度化・多様化する顧客ニーズに迅速に対応し、専門知識にもとづく企画力と推進力で、最適な資産管理サービスを顧客に提供する必要があります。そのため、それを担う専門知識を有した人材を確保・育成し、資産管理業務における真の専門家集団を形成していくことが求められています」とのことです。専門知識の習得は銀行



▲日本トラスティ・サービス信託銀行の入るビル

業務検定に限らず、外務員・簿記検定、TOEIC等の語学系、ITパスポート等のシステム系の資格にまで多岐にわたって求められていますが、社員の高い能力の裏付けがなされているようでした。

そして、専門知識に加えて自律的・主体的な課題解決ができる人材となることも目指し、業務への取り組み姿勢として次の4つを重視しているそうです。

- ①発信力…説得力のある言葉や主体的な行動をベースに、一体感を図る。
- ②理解力…相手との信頼関係を構築する。
- ③調整力…組織や人の連携をはじめ、社内外のリソースを巻き込んでいく。
- ④コンプライアンス…法令や社内規定等を遵守、社員として受託者責任を全うする。

「人事部では、社員一人ひとりがスキルアップしつつリーダーシップと協調性を兼ね備え、明るく働きやすい職場風土を形成することが大切と考え、さまざまな施策に取り組んでいます」とお話しくださいました。

(お忙しいなか、取材にご協力いただきました山本さんはじめ人事部の方々には心から感謝申し上げます)